

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870103698
法人名	有限会社 ラッセル社
事業所名	グループホームみなみ
所在地	松山市津吉町1142番地 1
自己評価作成日	平成26年12月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成27年1月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

家庭的な雰囲気を大切にしている。利用者にとっての身近な存在であり、安心できるように努力している。
 バス停やめだか、季節の花々など落ち着ける雰囲気にしている。
 職員間の連絡や相談が気軽に行えている。
 入居者に対して個別の対応ができるよう日々相談できるようにし、身体的・精神的な細かな気づきを大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

散歩時に庭に咲く小菊を摘んで来て玄関に活かされていた。靴箱の前には木製のベンチが置かれてあり、座って靴を履けるようにしている。居間の窓からは、皆で世話をしている畑が見え、利用者と職員で「春に何の苗を植えようか」と話しておられた。利用者は日中居間で過ごすことが多く、調査訪問時の午前中は、ティータイム後にテレビを見たり会話をしてお過ごされていた。飲み物は、数種類からお好きなものを選べるようにしている。昼食時には、それぞれの得意な歌の話をしていたこともあり、ひとりの利用者が「今日はカラオケをしよう」と他利用者や職員を誘っておられた。午後からラジオ体操をするのも日課となっている。
 車いすを使用し、おむつの状態で入居した方がおられ、入居後直ぐに、食事、入浴、排泄等、生活全般について見直し支援したケースがある。義歯を作ったり、お好きなものを食べてもらうことで食欲が増し、体調が整い歩行もできるようになっている。又、状態が改善して自宅の生活に戻ることができたようなケースもある。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームみなみ

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

池川 翔

評価完了日

H26年 12月 1日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 地域とのつながりを大切にしながら、人生の先輩として敬意、尊敬をもち、かつ日々よりよいサービス、個人個人その人らしく生活できる事を念頭におき、理念としている。また実践出来るよう話し合いもその都度行っている。	
			(外部評価) 事業所は「ボケても自分らしく生きる 地域の皆さまとつながり (Relation)、高齢者を尊敬し (Respect)、介護の質を高める (Quality)」と理念を作り、玄関に掲示しており、管理者は「利用者の笑顔を引き出しながら、一人ひとりがその人らしく暮らせるよう支援してほしい」と職員に話している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 組み入りして、清掃などにも協力している。また、地方祭や、鱈のつかみ取りなど、行事に参加したりもしている。	
			(外部評価) 田畑が広がる静かな場所にある民家改修型の事業所であり、事業所の看板はあえて掲げず、民家で暮らすことを大切に考えた支援に取り組まれている。秋祭りには、神輿が入り、子ども達が庭で獅子舞を披露してくれる。例年、神輿の入る時間が朝食時と重なっていたが、今年度は、秋祭り前の運営推進会議で、時間を少し遅らせてもらえるよう地域の方にお願ひして、利用者はゆっくりお祭りを楽しめるようになったようだ。地域の保育園との交流も続けられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 現在は推進委員会での疑問等などにお答えしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 利用者の情報やホームでの出来事に関して詳しくお話し、よい点も悪い点も、話し合いできるように努めている。自分達の姿勢を提示し意見を求めたりもしているまたホームで困難な面も提示し、参考な意見等もいただいている。</p> <p>(外部評価) 会議には、区長や民生委員、元民生委員、ご家族・利用者が各1名参加されている。会議では、利用者の入退居や受診・入院の報告、行事や外出、今後の予定を知らせている。又、その時々に応じて、後見人制度について市の担当者に説明してもらったり、地域の方に災害時の協力をお願いしている。区長からは、地域の行事を教えてもらい、外出計画に採り入れている。現在、会議内容は報告や情報交換に留まることが多く、市の担当者からは「テーマを決めて会議をしてはどうか」とアドバイスがあり、今後、採り入れたいと話していた。</p>	<p>今後はさらに、事業所の取り組みに協力を得たり、課題点を一緒に解決していけるような会議の工夫等にも取り組まれてはどうだろうか。いろいろな立場の方に参加を呼びかけて、会議を活かして協力者を増やしていかれてほしい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営等で疑問点・改善点があれば、相談するようにしている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議には、市の担当者、地域包括支援センターの方が参加しており、時期に応じて、ノロウイルスやインフルエンザについて注意喚起がある。その他、研修の案内等もある。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 職員全てが身体拘束の禁止事項を理解し、拘束のないケアを行っている。</p> <p>(外部評価) 日中は玄関に鍵をかけず、自由に出入りできるようにしている。入居間もない頃は「帰りたい」気持ち強い方もいるが、気の向くまま散歩できるよう支援したり、時には、ご自宅に帰ってみることも支援しながら、どのようなことに不安や心配があるのかを探って軽減できるような支援に努めている。夜間おむつの中に排便があった時、触ろうとする方があり腹巻きを付け対応していたが、職員間の話し合いで「夜間だけなので自由にしてもらってはどうか」という提案があり、現在は腹巻きをはずして、見守り支援しているケースがある。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員の普段の様子を観察すると共に利用者の身体の観察も同時に行っている。身体的・精神的変化を見逃さないように職員全体でお互い注意し、報告・連絡等も行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 実際に成年後見制度を2名利用されており、勉強会にも参加し、成年後見人の方とも、相談等行えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約等については、契約書・重要事項の説明を行うと共にわずかな疑問に対してもお答えしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族や利用者との間で、出来るだけ細やかな対応をし、連絡したり、来所時にはゆっくり話す機会を持ち、気軽に話せる雰囲気作りに努めている。また、その話をミーティング等で話し合うようにしている。 (外部評価) ご家族には毎月の利用料を事業所まで持参していただくようお願いしており、来訪時には利用者の日常の様子を見てもらったり、体調を報告して要望や意見を聞くようにしている。現在、事業所便り「みなみ通信」は休刊しているが、各居室に、外出や行事時の写真を飾って、ご家族来訪時に見てもらえるようにしている。ご家族の中には、熱心に見る方もあるようだ。	今後さらに、ご家族とともに利用者の生活を支えていけるよう、情報発信を工夫したり、運営推進会議や行事への参加等も働きかけていかれてはどうか。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 運営に対して職員の提案・意見を定期的なミーティングでの話し合いや個々でも相談しやすいような雰囲気作りに心がけている。代表・管理者のほかにはホーム長、主任1名含め、互いに協力し合っている。	
			(外部評価) すべての職員が、事業所の勉強会の他に、年1回は希望する外部研修を受講できるよう取り組まれており、受講後にはスタッフ会で研修内容を報告し共有されている。長年勤務している職員がホーム長を務めており、職員は個別にケア等の相談をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 少しでも還元できるように加算基準を満たす努力はしている。勤務年数に応じた昇給、加算分の還元を行うなど。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修を勧めたり、資格取得に対しても積極的に勧め、スキルアップに努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 職員が他施設に見学に行ったりしたり、来ていただいたり話をしたり、お互いのよいところを伝え合ったりし、よいところは取り入れたりしている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人と話す時間を持ち、出来るだけ多くの事を聞き、何が不安で何を必要としているかを理解するようにしている。本人が話したいときに待つではなく、まず耳を傾ける努力を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) これまでの家族の苦労話や、サービスに対する不安や、意見にその都度対応している。実際家族が気軽に話せる関係作りにも努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 家族・本人の意見を聞き、まず何が必要か検討し、支援を行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人の不安や楽しみ等を知ること努め、共に支えあうように努めている。時には家族、知人になり、よりよい理解者になるよう努め、信頼関係が持てるようにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の面会の際には、出来事やその時の利用者の様子や現在の身体・精神状況など日ごろの状態を報告し、共に介護について話し合っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人が連絡を希望している場合は希望に沿うようにしている。馴染みの場所を思い出せない人も多くなっているのが実情である。	利用者から、馴染みの場所や人についての情報を得ているが、利用者の心身の状況等のこともあり、支援には工夫が必要なことも多いようだ。利用者の思いをもとに、チームで話し合っ支援につなげていかれてはどうか。
			(外部評価) 利用者にとってなじみ深い椿祭りには、毎年出かけて楽しめるように支援しており、お参りしたり縁起飴を買う方もある。利用者の中には、ご家族へ手紙を出す方がおられ、職員が表書きをしたりポストに投函する等してサポートしている。利用者との日頃の会話の中には、昔よく行ったお寺や昔住んでいた地名、若い頃に勤めていた職場の話題が上ることもある。利用者は「行ってみたいけど、もう分からんなあ」と話す方もおり、職員は「ご本人の気持ちを後押しして、叶えてあげたい」と話していた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価)	昔遊んだ事や、歌などを話題にしたりすることで全体の会話へとつなげ、お互いに懐かしんだりして交流を持つことが出来るように努めている。
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価)	入院後体調が思わしくなく、退去となった方にも気軽に相談してもらえるような関係作りに努めている。相談には、誠意を持ってお答え対応している。
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価)	利用者のペースにあわせ、一人ひとりが自分で決めたり、選んでもらう場面を作っている。選ぶのを待つ等の配慮を行っている。また個人個人の意見も大切にしている。困難な場合もその人に何が必要であるか、検討した上で行うようにしている。
			(外部評価)	
				日々の介護記録は、利用者の様子や言葉・表情、職員との会話のやり取りや支援内容を分かりやすく記入するよう改善しており、職員間で情報共有して利用者の思いや意向の把握に取り組まれている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価)	馴染みの家具・馴染みのもの等置き、家庭の雰囲気作りに努めている。家族より情報を聞く等している。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価)	毎日バイタルチェックを行い、一人ひとりの健康状態を把握し、声かけや、会話、普段の様子を観察することにより、身体・心の状態を知るよう努めている。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 家族・医療関係者・職員と相談し、意見等も検討し、毎日職員同士で話し合いも行い、利用者に一番良い、一番必要としていることを介護計画として作成している。</p> <p>(外部評価) 介護計画は「できたかどうか」を○と／で毎日モニタリングしており、毎月、担当職員が評価してスタッフ会で話し合い、3ヶ月毎の介護計画の見直しにつなげている。車いすを使用し、おむつの状態で入居した方がおられ、入居後直ぐに、食事、入浴、排泄等、生活全般について見直し支援したケースがある。義歯を作ったり、好きなものを食べてもらうことで食欲が増し、体調が整い歩行もできるようになっている。又、状態が改善して自宅の生活に戻ることができたようなケースもある。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 一ヶ月毎に介護計画の評価を行っている。経過記録を出来るだけ具体的に個人個人で記入してもらい、一ヶ月の経過記録より評価している。情報の共有、介護計画にも生かしている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 通院・外出等個人の希望に沿って出来るだけ職員で対応しているが、同行可能な時は家族にお願いする時もある。家族の希望があれば宿泊も出来る。出来るだけ個別にも対応できるよう努めている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 現在活用出来る方がいないが、本人の今までの生活や思いに沿った支援ができるよう心がけている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<p>(自己評価)</p> <p>かかりつけ医については、本人・家族の意向を聞き、以前からかかっているところを希望される方に関しては、従来通り同じ所を受診してもらっている。また、現在は、全員、本人・家族の意向により、かかりつけ医の往診を受けている。また、急変時にも医師に相談できるように連携をとっている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者全員が月2回、協力医の往診を受けている。現在、希望により2名の利用者は、ご家族か職員が付き添い、以前からのかかりつけ医に継続して診てもらえるよう支援している。歯科は訪問診療を利用している。訪問看護とも連携しており、往診を含めて毎週訪問があり、利用者の健康管理をしてくれている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<p>(自己評価)</p> <p>変化に気づいたときはスタッフで相談し、訪問の看護師や主治医への報告等行い、重症化しないようにしている。ほんのわずかな気づきも報告しあっている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	<p>(自己評価)</p> <p>利用者が入院した際は家族との連絡、病院に状態を定期的に聞きに行くなどして退院時期も早期に相談し、対処出来るようにしている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>個々のレベルに合わせた話し合いを持っている。体調の変化や身体・精神状態の変化に対して、家族にその都度話し、理解してもらっている。重症化する恐れや緊急時の対応なども医師や看護師を交えたりして行ったりもしている。また、事業所での重症化・緊急時のあり方等も話し合いさせてもらっている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>入居時、ご家族に「希望があれば看取り支援を行える」ことを説明し、その後、状態に応じてご本人やご家族の意向をお聞きしながら、話し合っている。利用者の終末期の希望については「延命措置はせんでええ」「死にとうない」等、会話の中でさりげなく聞き取り記録されている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署職員に来ていただいて、緊急時処置を学んだり、急変時の応急手当も利用者の個々に合わせて行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 地震等の配慮、火災時の非難等に配慮して、家具の配置・ベットの配置など気をつけている。 入居者の状態によりベット向きが困難な所は直接ベット上にかぶさらないようにするなど。 同じ敷地内にある代表宅との緊急ベルを設置した。	事業所が所在する地域は、水害の危険地区でもある。今後さらに、地域の防災訓練に参加したり、運営推進会議等を通じて地域の方と一緒に防災について話し合いながら、協力体制を具体的に作っていかれてはどうか。
			(外部評価) 年2回、昼・夜間の地震後の火災を想定して利用者参加で避難訓練が実施されている。以前、消防署の協力のもと、毛布を使ってベッドから利用者を降ろす訓練を行った経験をもとに、歩行が難しい利用者のベッドの高さを夜間のみ下げている。事業所は太陽光発電を利用したオール電化の設備を整えており、さらに、昨年11月にはスプリンクラーも設置された。今年度の運営推進会議時には、災害時の地域の方の協力を改めてお願いした。市の担当者からは「地域の避難所の集会所まで、歩いて避難する訓練もしてはどうか」とアドバイスがあった。備蓄として水や乾パンを確保したり、災害グッズも数セット備えている。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個々に合わせた対応、会話をするように心がけている。	
			(外部評価) 入浴、排泄支援は、同性介助を基本としており、管理者は職員に「居室でベッド交換等する際にはドアを閉める」「排泄用の備品を丸見えにしない」ことを話している。真面目な性格の利用者の方には普段から敬語で話し、又、不安になる方には、安心してもらえるよう下のお名前でお呼びする等、それぞれに応じて対応している。お誕生日にはご本人の食べたいものやプレゼントを用意し、個別にお祝いしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 状況に合わせて対応ができるように職員同士の情報交換も頻繁に行いながら、利用者に強制しないで安心して生活できるように働きかけを行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 散歩、ドライブ、日向ぼっこ、買い物、草引き、食器拭き、洗濯物たたみ、テレビ観賞、ボール遊びなどみんなが同じ時間に動くのではなく、一人ひとりのペースに合わせた支援を行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 職員が声掛けし、カットや整髪したりしている。希望すれば近所の美容院等に対応することも出来る。各人の好みに合わせて行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一緒にスーパーの広告や料理の本などを見て食材や料理について話しをしたり、味見等してもらっている。個人の能力に合わせたお手伝いもしていただくようにしている。	
			(外部評価) 食材の買い出しには利用者が交代で行っており、カートを押してくださる方もいる。献立は、その日出勤の職員が、毎食ごとに冷蔵庫の食材を見て、利用者と相談しながら決められている。朝食には、ご飯を好む方がほとんどで、水分補給を兼ねておかゆにしており、昼食・夕食には毎回汁物を付け、食が進みやすいようにしている。調査訪問日の昼食のカレーライスには、近所の方からいただいたラッキョウを皆で漬けた手製のものが添えてあった。職員は「お味はどうですか」と利用者に聞きながら一緒に食事をしていて、料理の得意な利用者の方が、野菜の下ごしらえや盛り付けをしたり、台拭きや食器拭きをする方もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 各個人にあった食事形態で食事をしていただいております。水分も定期的に提供している。食事制限、体重管理、栄養管理など、医師とも相談しながら支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後の歯磨きを声掛け行っている。また必要な方は洗面所まで誘導し見守り介助を行い、また全介助の方にはカーゼなどを活用し口腔ケアを行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価) 食事の前後を目安に声掛けやトイレ誘導を行っている。排泄チェック表に記入して個人の排泄パターンを考慮しながら対応している。利用者によってはおむつをしたままではなく、ポータブルトイレを利用して頂くこともある。</p> <p>(外部評価) 建物の1階に居間と居室があり、利用者は2ヶ所のトイレを使用されている。車いすでも使用しやすいようにトイレの扉を外し、2重カーテンを取り付けている。おむつの状態で入居となる場合もあるが、職員は「まずはトイレに行ってみよう」という考えで、自立に向けた支援に取り組まれている。「尿意があり、立つことができる」等、職員の気付きや排泄パターンの把握をもとにして支援し、排泄状況が改善しているようなケースも複数ある。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) ヨーグルト、牛乳、季節の果物などの食材をふんだんに使用する。水分補給など、その方にあった解消方法を常に検討し、実践している。</p>	
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価) 各個人のその日の体調を観察しながら、声掛けして入浴して頂いている。どうしても拒否される方にはタイミングをみて声掛けを考えたり時間をずらしたりして様子を見ている。</p> <p>(外部評価) 入浴は「好きな時間に、好きな日に」という考えのもと支援しており、ほとんどの方が週3~4回、中には毎日入浴する方もおられる。脱衣所の壁には、利用者個々の入浴の好みや職員が注意すること等が掲示されていた。利用者の中には、ひとりで入浴する方も数名おり、職員は脱衣所で見守りながら安全に入浴できるよう支援している。現在、立つことの出来ない方が1名いるが、取り付け式の家庭用リフトを使用して、湯船で温もれるよう支援されている。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価) ご本人の生活パターンや夜間の様子などを考慮しながらスタッフ間でも話し合ったりして対応している。寝具は季節や気温に気をつけて調整している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) スタッフ全員が薬の目的など理解できていない時もあるため一覧表を表示し、確認するようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 本人に合った役割や喜びや楽しみを持つことができるようにしている。意思表示できない方には表情等観察して支援したりもしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 家族の方と一緒に外出したり、希望された時には外出したりしているが、まだまだ行けていない事の方が多い。	
			(外部評価) 食べたいおやつや日用品を買いに近所のスーパーに出かけたり、季節に応じて、重信川の河川敷でお花見したり、浄瑠璃寺の菖蒲や交流のある障害者支援施設に咲く菊鑑賞にも出かけられた。父の日には、男性利用者3名と職員で百貨店の観覧車に乗りに行かれ、街の景色を眺めたり、ケーキを食べて楽しまれた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 個人の能力に合わせて支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望される方がおられない。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 玄関前でメダカを飼ったり玄関には生け花を飾ったりして季節感を感じて貰ったりしている。庭では花や野菜を育てている。</p> <p>(外部評価) 散歩時に庭に咲く小菊を摘んで来て玄関に活けられていた。靴箱の前には木製のベンチが置かれてあり、座って靴を履けるようにしている。居間の窓からは、皆で世話をしている畑が見え、利用者職員で「春に何の苗を植えようか」と話しておられた。利用者は日中居間で過ごすことが多く、調査訪問時の午前中は、ティータイム後にテレビを見たり会話をしてお過ごされていた。飲み物は、数種類からお好きなものを選べるようにしている。昼食時には、それぞれの得意な歌の話をしていたこともあり、ひとりの利用者が「今日はカラオケをしよう」と他利用者や職員を誘っておられた。午後からラジオ体操をするのも日課となっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) リビングに畳イスを設置し、そこで横になり足を伸ばしたり洗濯物をたたんだりされる。またリビングでは談笑されている。他の方と関わるのが苦手な方には職員が必要に応じ働きかけている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) ご家族と撮った写真などを飾ったり、好きな人形や縫いぐるみなどを飾ったりしている。また落ち着けるように本人に合わせた家具を用意したりしている。</p> <p>(外部評価) ベッド、タンスは備え付けになっており、寝具はご家族が用意されている。壁にカレンダーや大きく引き伸ばしたお孫さんの写真を飾ってある居室もあった。棚に位牌を置き、ご自分で水をお供えする方や、鏡を見ながら電気カミソリで髭剃りをする方もある。読書をするのが日課の方は、ベッドをご自分のラクな角度にギャッジアップして読まれるようだ。裁縫箱を使ってほつれを繕う方もあり、作業後は、職員が縫い針の本数を確認してサポートしている。ベッドでお気に入りのお人形と一緒に寝ると安心する方もおられる。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 個人に合わせた環境づくりに勤めている。今まで行っていなかった事も個人の生活歴や好みに合わせた方法を検討するなどの取り組みを行っている。</p>	